

a keyboard anthology

**First Series Book 1**

Grades 1 & 2

**AIBRISM**  
PUBLISHING

a keyboard



anthology

キーボード・アンソロジー 1シリーズ  
Book 1 (グレード1&2)

with pieces by

J. S. Bach, Bertini, Clarke, Clementi, Czerny,  
Diabelli, Duncombe, Franck, Graupner, Handel, Haydn,  
Jones, Mozart, Pleyel, Purcell, Rathgeber, Reinecke,  
Scarlatti, Schumann, Stölzel, Tchaikovsky

edited by Howard Ferguson

The Associated Board of the Royal Schools of Music

---

1. おもちゃ  
作曲者不詳

p. 2

出典は、フランシス・トレギアンが筆写した鍵盤音楽のための作品集「Fitzwilliam Virginal Book」より。作品名「A TOY」は、陽気で活発な曲想を意味する。オリジナル楽譜では1小節に記譜されていたものを2等分して、小節線を入れてある。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

2. プレリュード、組曲第1番 ト長調より  
ヘンリー・パーセル (1659-1695)

p. 3

出典：パーセルの「A Choice Collection of Lessons for the Harpsichord or Spinner」(Henry Playford, London 1696)。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

3. トランペット メヌエット  
ジェレマイア・クラーク (1673-1707)

p. 4

出典：「2nd Book of the Harpsichord Master」(London 1700)  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

4. エア ヘ長調 BWV Anh.131  
ヨハン・セバスチャン・バッハ (1685-1750) 選曲

p. 6

バッハが1725年に2度目の妻のために書いた「Anna Magdalena Bach Notenbüchlein」(アンナ・マグダレーナ・バッハのためのクラヴィア小品集)からの出典。このエア(原本には題名はついていない)は、同曲集にある多数の作品と同様、バッハ自身の作品ではないと考えられる。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

5. メヌエット ハ長調、ソナタ ハ長調 K.73, L.217より  
ドメニコ・スカルラッティ (1685-1757)

p. 7

この楽譜は、現在はパルマにあるパラティーナ図書館所蔵のスカルラッティ手書きの鍵盤曲集15巻の中の一  
曲。15小節目のpianoの表示はオリジナルのまま。それ以外のすべての強弱記号とほとんどのフレージングは、  
校訂者の手による。

---

6. インパーティネンス B.175/30  
ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759)

p. 8

出典は、以前は第3代エイルズフォード伯爵の元にあり、現在は大英図書館のロイヤルコレクションに所蔵さ  
れるヘンデル曲集の原譜より。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

7. ガボット ト長調  
クリストフ・グラウプナー (1683-1759)

p. 9

出典は、ダルムシュタットにあるヘッセン州立図書館収蔵の原譜より。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

8. アレグロ ト長調  
ヴァレンティン・ラートゲーバー(1682-1750) p.10

---

出典：「Musikalischer Zeit-Vertreib auf dem Klavier」(1743)  
7小節目は原典版では抜けていると思われる部分を校訂者が書き加えたもの。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

9. エア・イタリアン、パルティータ ト短調より  
ゴットフリート・ハインリヒ・シュテルツェル(1690-1749) p.11

---

出典は、「Wilhelm Friedmann Bach klavierbüchlein」(ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのためのピアノ小曲集)より。この曲集は J・S・バッハが彼の長男のため、1720年に編纂を始めたもの。この「エア・イタリアン」は、シュテルツェル作曲の4楽章からなるパルティータの第2楽章。オリジナル原譜では、8小節目の複縦線の左右両方にリピートのためのドットが書かれていたが、24小節目には何もドットがないこと、またもし9-24小節を繰り返すと中間部がバランス的に長すぎるということで、右側部分のリピート記号を省略した。すべてのフレージング(11小節目、右手部分の4つのスラーを除く)、強弱記号は、校訂者の手による。

---

10. メヌエット ハ長調、組曲第6番より  
リチャード・ジョーンズ(1730) p.12

---

出典は、「Suits or Setts of Lessons for the harpsichord or spinner」(Walsh, 1732年頃)の組曲第6番より。  
オリジナル譜にあった4つの装飾記号は使わずに、実音で楽譜に書き込んだ。  
すべての強弱記号、フレージングは、校訂者の手による。

---

11. ドイツ舞曲 Hob.IX/22 No.3  
フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732-1809) p.13

---

この曲の自筆譜は知られておらず、ここでは、同時代の写譜士によって書かれた、現在はドレスデンにあるザクセン州立図書館に収蔵の「10のドイツ舞曲集」より引用。下の筆写譜からわかるように、オリジナルには、テンポ、フレージング、発想記号はない。(右手のパートが中央ドを五線譜の第一線に置くソプラノ記号で書かれていることに注意。)リピートで1回目・2回目に弾かれる小節は、現在のバージョンで示されているように考えられる。また、ここにはテンポ、フレージング、発想記号も書き加えたが違った解釈も可能であろう。

---

12. アレグロ 変口長調 K.3  
ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791) p.14

---

このアレグロの小曲は、1762年の3月4日に書かれたが、その時モーツァルトは6歳であった。1828年、ニッセンの「モーツァルト伝」刊行時に初めて出版される。  
第1、7、8、13、17、21、22、29小節目の2つの音をつなぐスラーと、11小節目の4つの音をつなぐスラーは、オリジナルのもの。それ以外のフレージングとすべての発想記号は、校訂者の手による。

---

13. メヌエット ハ長調  
ウィリアム・ダンコム(18世紀) p.15

---

出典：「First Book of Progressive Lessons」(1778)。  
オリジナルには、テンポ、フレージング、発想記号はない。

---

14. ソナチネ ハ長調 Op.36 No.1 第一楽章  
ムツィオ・クレメンティ(1752-1832) p.16

---

初めは、「Six Progressive Sonatinas for the piano forte」(Longman&Broderip, London, 1797)の第一番として出版された曲。

---

15. メヌエット ハ長調  
イグナツ・ヨゼフ・プレイエル(1757-1831) p.18

---

出典は、プレイエル、デュセック共著の「Methode pour le piano forte」(Pleyel, Paris, 1979)の中の17番目の練習曲。  
すべてのフレージング、強弱記号は、校訂者の手による。

---

16. レッスン ハ長調 Op.125 No.10  
アントン・ディアベリ(1781-1858) p.20

---

出典：「Die ersten 12 Lektionen, Op.125」(1830)  
いくつかのフレージング、強弱記号は、校訂者の手により加筆。

---

17. 練習曲 口短調 Op.139 No.98  
カール・ツェルニー(1791-1857) p.22

---

出典：「100 Peties Etudes, Op.139」  
強弱記号は、校訂者の手による。

---

18. 練習曲 イ短調 Op.137 No.98  
アンリ・ベルティエニ(1798-1876) p.24

---

出典：「25 Elementary Studies, Book I, Op.137」

---

19. 勇敢な騎手 Op.68 No.8  
ロベルト・シューマン(1810-1856) p.26

---

出典は、1848年に書かれた「Album für die Jugend」のシューマン本人の自筆譜より。かぎカッコ内の記号は、校訂者の手によるもの。

---

20. 人形の悲しみ  
セザール・フランク(1822-1890) p.27

---

出典は、作曲者自身の自筆譜を模譜したものより。

---

21. ソナチネ ト長調 Op.127a No.2 第1楽章  
カール・ライネツケ(1824-1910) p.30

---

出典：「6 Sonatinas, Op.127a」(Senff, Leipzig)

---

22. ロシアの歌 Op.39 No.11  
ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-1893) p.32

---

出典：「Jugend Album, Op.39」(Jurgenson, Moscow 1893)  
3小節単位のリズムをはっきり表し、25小節目で2小節単位のリズムにきちんと変わるように。スラーの付いてない音は、ノンレガートで。